

コンテストの優勝歴は63回。

「地方だからできない」じゃなくて、「どこにいてもできる」を見せ続けたい。



Litt Hair Design

# 田口隼人

1987年、岡山県津山市生まれ。  
 グラムール美容専門学校在学中から、  
 大阪府吹田市内の美容室でアルバイトをし、  
 卒業後は同サロンに入社。  
 学生時代からコンテストに積極的に出場し、  
 優勝回数は63回(2020年1月時点)。  
 2017年、岡山県津山市に  
 Litt Hair Designをオープン。  
 2019年12月、拡張移転リニューアル。

## Litt Hair Design



津山市内にある古民家をリノベーションしたサロン。都市部に行かなくても手に入る都会的なヘアデザインとサロンの雰囲気若い世代を中心に人気を集めている。

A.岡山県津山市上河原170-3  
<http://litt.jp/>

## 田口隼人さんってこんな人!

いつも流行のヘアスタイルや新商品など、私に合わせた新しいことを提案してくれるのでとても嬉しいです。コンテストの結果を聞くのもいつも楽しみにしています。

森木 真希さん  
(顧客)

技術が上手なのはもちろん、教える方がとてもわかりやすいんです。新しいことをたくさん思いついて、サロンがどんどん変わっていくので、働いていてとにかく楽しい!

須藤 凜さん  
(Litt Hair Design  
アシスタント)

とにかく知識が幅広く、美容師として苦しいことがないのがすごい! スタッフの人生設計も考えてくれているし、サポートすることがほとんどありません。掃除くらいかな!?

山崎 美佳さん  
(Litt Hair Design  
副店長)

### 田口さんの活動

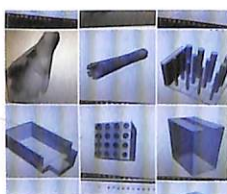
#### 目指すはギネス!

学生時代からさまざまなコンテストに出場。優勝70回を超えたら、ギネスに申請するつもりだそう。目標は5年後!



NHDKのモデルウィッグカット部門で優勝したときには地元の新聞にも取り上げられ注目を浴びた。

#### 3Dプリンターも自作



とにかく気になったらすべてやってみたいタイプ。コンテスト用のアイテムをつくれなかと、3Dプリンターから自作。ロッドやパーマ用ペーパー入れを設計。

#### 地元スポットをCHECK

時間ができたら津山の新しい人気施設を偵察に。お客様との会話のネタになるだけでなく、自分だったらどうするかを考えてサロンの将来設計に組み込んでいく。



コンテストの優勝歴、その数約60回。そんな実績を引っ提げて2017年、地元である津山市に戻り、サロンをオープンした田口さん。オープン3年目の昨年末には、早々に拡張移転を果たし、まさに波に乗っている若手経営者といったところだ。

「大阪で10年働き、両親がいる津山に戻ってきました。正直、50代、60代のお客さまばかりだと思っていました。でもオープンしてみたら顧客の70%が20代から30代。もつやらなくなるかもと思っていました。1日に何人も施術しています」

SNSの影響も大きいだろう。都市部も地元も、求められるデザインにほとんど差はなかった。「主は都会的なヘアデザインとサロンの雰囲気こだわること、津山の街で徐々に存在感を増して

いっている。新しいサロンは店舗面積60坪。スタッフ5名という現在の人数では十分過ぎる広さだ。

「大阪時代、順調に伸びていた売り上げが頭打ちになった経験があります。スタッフの層やお店の規模が足りなかった。だからここではスタッフが200万、300万売り上げられるスタイリストになりました」と言ったときに、目指せる舞台を整えてあげたいんです。移転で広さは手に入れました。次はスタッフの層を厚くしていく段階です」

オープン時、サロンの売りは「自分」と語っていた田口さん。今ではだんだんと主役はスタッフという感覚に変わってきている。ただそんな中でも、ウィッグ部門を中心に優勝を積み上げてきたコンテストの出場はやめていない。

「前サロンのオーナーは70回優勝という

記録を持っていました。僕が知っている限り、これが最多。これを超えたいし、超えたときに見える景色が楽しみなんです。それにコンテストはどの土地の美容師にも開けている挑戦の場です。どこにいても優勝できるというのを、見せ続けたいと思っています」

津山に戻ることを決意する前の葛藤は、確かに大きかった。だがこの地に根を下ろしてみても、やるべきことがほとんど明確になつていく。

「子どもの頃から友人や大切な人が、年をとってもずっと周りにいるのが地元。この土地の人たちを幸せにし続けて、最後まで仲良く付き合っていくのが夢になりました。近い目標は主をヘアだけに留まらない津山の新しいビューティースポットにすること。新しい技術を積極的に取り入れて、大きくなっていきたいです」